

令和6年度 スタディー・アブロード（海外教育交流協定校・大学）派遣の実施について

海外留学の現状

令和6年度は計23名の学生を海外の提携校に派遣しました。うちオランダのハーグ応用科学大学、カリフォルニア州立大学サンマルコス校、ノーステキサス大学には初めての派遣となりました。

令和6年度から外国学科独自の海外留学に特化した「伊藤奨学金」が設立され、4名の学生達が海外留学奨学金100万円を受給し、オランダ、アメリカ、フランスに留学をしました。

令和7年度には、カナダ、イギリス、フランス、オーストラリア、ベトナム、台湾、韓国ほかに、約12名の学生を派遣するべく準備中です。

学生番号	国名	留学先機関名	留学期間
C122027	カナダ	オカナガンカレッジ	2024年4月30日～8月28日
C122013	カナダ	オカナガンカレッジ	2024年4月30日～8月28日
C122002	アメリカ	ノーステキサス大学	2024年8月10日～10月13日
C123014	アメリカ	フィンドレー大学	2024年8月11日～12月15日
C123015	アメリカ	UC サンマルコス	2024年8月16日～12月18日
C123003	ドイツ	F+U ランゲージアカデミー	2024年8月17日～9月29日
C122007	オーストラリア	BROWN ENGLISH LANGUAGE SCHOOL	2024年8月24日～10月6日
C122014	カナダ	オカナガンカレッジ	2024年8月26日～12月20日
C122021	カナダ	オカナガンカレッジ	2024年8月26日～12月20日
C123011	カナダ	オカナガンカレッジ	2024年8月26日～12月20日
C123030	カナダ	オカナガンカレッジ	2024年8月26日～12月20日
C122020	オランダ	ハーグ応用科学大学	2024年8月27日～2025年2月6日
C122018	アメリカ	ニュージャージーシティ大学	2024年8月27日～12月25日
C121018	フランス	EMBA ビジネススクール	2024年8月27日～12月16日
C123025	フランス	EMBA ビジネススクール	2024年8月27日～12月16日
C123024	韓国	釜山外国語大学校	2024年8月29日～12月15日
C122018	タイ	サイアム大学	2025年1月3日～9月6日
C123013	アメリカ	フィンドレー大学	2025年1月6日～5月10日
C123017	アメリカ	フィンドレー大学	2025年1月6日～5月10日
C122018	オーストラリア	BROWN ENGLISH LANGUAGE SCHOOL	2025年2月14日～3月29日
C122004	アメリカ	EC ロスアンジェルズ	2025年2月15日～3月31日
C122025	アメリカ	EC ロスアンジェルズ	2025年2月15日～3月31日
C122005	オーストラリア	BROWN ENGLISH LANGUAGE SCHOOL	2025年2月22日～4月6日

2025 年 3 月 20 日

2024 年度伊藤奨学生留学報告書

留学先国・大学名： フランス・EMBA Business School

留学期間： 2024 年 8 月 28 日～2024 年 12 月 15 日 (4 ヶ月間)

1. 留学計画 (簡単に)

- ・フランスの文化や価値観を深く理解する

現地の人々との交流を通じて、日常生活の中でフランスの考え方や習慣を学ぶ。文化的背景を理解することで、日本との違いを実感し、多様な視点を身につける。

- ・美術館訪問を通じて芸術の視点を広げる

印象派の巨匠であるモネの作品を実際に鑑賞し、彼の表現技法を学ぶ。美術館の展示構成や解説を通じて、フランスの芸術に対する価値観を理解する。

- ・新しいことに挑戦し、異文化適応力を高める

異文化の中での生活に適応し、自立した生活力を身につける。現地のイベントや活動に積極的に参加し、フランスの文化をより深く体験する。フランスの料理や生活習慣を実際に体験し、自国の文化と比較することで新たな視点を得る。

2. 活動報告・計画達成状況 (学業、生活、イベントなどへの取り組みなど)

(1) 学業 (履修した授業の内容を簡単に記述し、学んだことを記述。)

学業面では、EMBA Business School でフランス語を履修し、基本的な文法や会話表現を学びながら、日常生活で実際に使えるフレーズを習得しました。クラスメートとのディスカッションや発表を通じて、会話力の向上にも努めました。また、ブルターニュ地方の歴史についても学ぶ機会があり、地域の伝統や文化の成り立ちについての理解を深めることができました。

授業はグループワークやディスカッション形式が多く、日本の授業とは異なり、発言する機会が多く設けられていました。初めは戸惑いましたが、積極的に発言することで、自分の意見を論理的に伝える力が向上

しました。フランス人の講師やほかの国から来た留学生と意見を交換することで、新たな視点を得ることができました。

(2) 生活（ホームステイ、学生寮、シェアハウス、アパートなどでの経験）

生活面では、アパートでの一人暮らしを通して自立した生活を経験し、日本とは異なるフランスの習慣に適応する力を養いました。フランスの日常に溶け込んだ生活を体験する良い機会となりました。

(3) イベントなどへの取組み（異文化交流の体験など）

異文化交流の面では、EMBA Business School の国際交流イベントに参加し、他の国の留学生と交流を深めました。特に、フランスと日本の習慣の違いについて気が付くことが多く印象深かったです。異文化理解の重要性を実感しました。留学しなければ得られない貴重な経験をすることができました。



EMBA イベント

3. 留学を終えての所感と将来への抱負

(1) 所感（自由に）

フランスでの留学を通じて、日本の文化や価値観を改めて見つめ直す機会となりました。フランス人の多くが日本文化に関心を持っており、アニメや日本酒に興味を持つ人もいれば、日本の自然や四季の美しさに魅了されている人もいました。このような交流を通じて、日本の文化がどのように受け入れられているのかを知ることができました。また、異文化適応力の向上も大きな収穫でした。

(2) 将来への抱負（留学経験をどのように活かすのか？）

フランスに留学することで、芸術だけでなく異文化にも触れ、自身の視野が大きく広がりました。また、様々な経験を通じて自信をつけることができました。この経験を活かし、島根大学生協の語学やシドニー留学プログラムのサポートをする仕事に就くことが決まりました。留学を

通じて学生が語学や異文化に触れ、将来の視野を広げる手助けをしたいと考えています。また、留学前や現地で不安を抱える学生に寄り添い、安心して挑戦できる環境を作りたいと考えています。

4. その他事項

フランスで特に印象に残った食べ物の一つに、ブルターニュ地方のガレットがあります。そば粉を使用したクレープのような料理で、シンプルなものから、チーズやハム、卵を使ったものまで様々なバリエーションがありました。現地のレストランで何度も味わい、その地方独自の食文化を体験することができました。



ブルターニュ地方の有名な食べ物 ガレット

留学中にはパリも訪れ、エッフェル塔や美術館などの観光地を巡りました。美術館では、日本ではなかなか見ることのできない世界的な名画を鑑賞し、芸術に対する理解を深めることができました。フランスの歴史や建築の美しさを実際に体感できたことも、非常に貴重な経験となりました。



パリ観光

最後になりますが、この度は、伊藤奨学金を授与していただき、伊藤謙介先生をはじめ関係の皆様にご心より御礼申し上げます。この留学を糧として、今後は大学生らの留学サポートに携わって参ります。

以上

2025 年 3 月 11 日

2024 年度伊藤奨学生留学報告書

留学先国・大学名：米国ニュージャージー州 New Jersey City University

留学期間： 2024 年 8 月 27 日～2024 年 12 月 25 日 (4 ヶ月間)

1. 留学計画 (簡単に)

- ・ 英語でのコミュニケーション力を向上する。
- ・ 体を動かして、健康的なリズム、正しい生活を送る
- ・ 授業の中で学びたいことを学ぶ
- ・ アメリカの文化や雰囲気を体験し、新しい価値観を見つける

2. 活動報告・計画達成状況 (学業、生活、イベントなどへの取り組みなど)

(1) 学業 (履修した授業の内容を簡単に記述し、学んだことを記述。)

Swimming: この授業は水泳初級者レベルを対象にしたクラスでした。この授業の最終的な目標は水泳を始めるために必要な基礎的なスキルを身につけることで、主な学習内容は基礎的な水泳を始めるのに必要な技術と知識。例えば、水中で鼻に水が入らないように息を止める方法。水を掻く時の効率的な手足の使い方などです。この授業では正しい泳ぎ方のフォームを学びました。元々水泳は得意な方で、初級者用のコースでがっかりしていました。初めの方の授業はとても簡単な事ばかりで退屈をしていましたが、後半の方になると、応用的な内容が増えてきて、学びがいのあることが増えてきました。特に泳ぎ方のフォームの改良が、学びがいがありました。正しいと思っていたフォームが実は少し違ったのでとても面白かった。

Spinning: この授業は室内で行うサイクリング・アクティビティ。この授業の最終的な目標は、身体能力の向上と人間の健康を理解することでした。実技と座学の二つに分かれており、実技の学習内容はエアロバイクの操作方法とワークアウト。座学の学習内容は人間の健康に関する内容などです。実技の具体的な内容は、エアロバイクを自分の姿勢に合うように調節、その後クライミング、スプリント、インターバルなどの異なったトレーニング内容でワークアウトを行い身体能力の向上を行いました。座学では水分補給の重要性や食事の重要性をテキストに沿って課題形式で学習しました。専門的なトレーニング器具を使った運動はあまり経験することが出来ないのも楽しかったです。

Fire science: この授業では消防隊になるために必要な基礎的な知識やアメ

リカの消防組織の構成を学ぶことができました。この授業の最終的な目標は、消防サービスの基盤を理解し、消防隊に必要なトレーニングと知識を科学的な視点から学ぶことです。この授業は課題として、予習が出されており、教科書を読んで単位ごとに 40 から 45 問の問題に答えて、その内容の解説と補足を授業の中で行う形式でした。具体的な学習内容は、消防隊の中に数多くあるそれぞれの分野に特化した消防隊の特徴やトレーニング内容でした。その他には、火災を防ぐためのシステムや歴史についても学びました。消防隊には今まで関心がなく、今回の授業で学んだことは全て新しい物ばかりで勉強になりました。ただ、日本の消防隊について少しでも知識があれば、日本とアメリカを比較して教授や生徒と意見交換ができたならもっと面白い授業にできていたのではないかと思います。

Physics: この授業では物理基礎を学ぶ事ができました。この授業の最終的な目標は、物理の基本的な原理を理解して説明できるようになることに加えて、物理の考え方を世の中でのさまざまな現象を理解できるようにすることです。学習内容は、日本の高校で習うような力学の公式、法則、考え方などでした。例えば、あらゆる公式を使って物体の速さとエネルギー量を計算で求めるなどがありました。私は高校の頃に物理は一通り勉強しており、復習のイメージでこの授業に参加しました。公式や単位は英語を元に作られているため日本語で学ぶ時とはまた違った学びがあったので楽しかったです。

Environmental issue and policy: この授業では、世界中の環境問題(大気汚染、水質汚染、海洋汚染、森林伐採)がなぜ起きるのか、地球と生命に与える影響を学びました。また、天然資源(石炭、石油、ガス、風、太陽)の生成原理と利用方法も科学的な視点を交えて学びました。この授業の最終的な目標は環境問題の発生原理を理解し、持続可能な社会を築いていくために必要な知識を身につける事でした。この授業では最終試験として好きなテーマを選んでそれについてプレゼンを行うものがありました。私は水俣病について調べて水質汚染の歴史と危険性を現地の学生達に発表しました。日本人であれば水俣病は誰もが知っている公害ですが、アメリカでは教授以外は誰も知りませんでした。このように日本の文化だけではなく、日本の課題を海外の人に自分で説明をして、知ってもらえることはとても達成感のある経験になったので良かったです。

(2) 生活 (ホームステイ、学生寮、シェアハウス、アパートなどでの経験)

アメリカ滞在中は大学が運営している専用の寮に住んでいました。寮にはキッチンや給湯室などの設備はなく、食事はすべてキャンパス内の食堂や大学が提携しているレストランのみでした。アメリカの食事はもちろんジャンクフードが多かったですが野菜やサンドイッチも沢山あり、ストレスなく生活できました。アメリカで一番気に入っていた食事は、ライスの上にサイコロステーキ

を載せて、レタスとサルサソースで味付けされたものでした。トッピングを変えることで味の変化があるのでとても良かったです。食堂の食事もう味はとても美味しく価格も比較的安かったのも物価の高いアメリカではとても助かりました。大学と寮の距離は徒歩で8分程でしたがシャトルバスも運行しているのでアクセスはとても良かったです。教授や学生も人柄がよく、イベントも多く開催されており、年間を通してずっと楽しめそうな大学でした。留学をサポートしてくださっていたスタッフの方も分からないことや困った事があればすぐに対応していただけたので充実した生活を送ることができました。休みの日には友人と日本食レストランなどに行き食事をしました。また、友人の紹介で教会のパーティーに参加して、キリスト教について少し学ぶこともできました。寮とニューヨークまでは乗り継ぎ一回で行ける距離だったので、有名なところを観光したり、お土産を探したりして楽しみました。特にタイムズ・スクエアは昔からテレビなどで観ていたもので、実際にこの目で見られたことに感激しました。行きたいところ全ては、行くことはできなかったのも、また、いつかニューヨークに行きたいと思います。

(3) イベントなどへの取組み（異文化交流の体験など）

私は滞在中にアメリカ人学生に日本語を教えていました。入学式のオリエンテーションで偶然出会った人が昔日本に留学した経験があり、日本に興味を持ってくれおり、また、日本留学したいとのことだったので、日常会話の練習などを通じて日本語を教えていました。はじめは一人でしたが途中からは、私の日本の大学（吉備国際大学）に交換留学をしていた学生と日本語を学びたい学生、合計5名に日本語を教えていました。日本語を教えることで英語の能力があがると同時に私自身が日本語、文化についての理解が深まりました。この経験を通して今後の人生のためになるようなことを学べたと思います。

3. 留学を終えての所感と将来への抱負

(1) 所感（自由に）

留学中にアメリカ人に日本語を教えるなどをして交流を図ることができたのは良かったと思います。一方で、日本語を教えていた友人以外とは、あまり交流する機会がなかったことは残念でした。もっと他の人と関われるような活動に、もっと積極的に参加すればよかったのではないかと反省しています。

(2) 将来への抱負（留学経験をどのように活かすのか？）

今回の留学で一番身についたことは、「何かを続ける」ことです。留学中、私は就職活動のための試験勉強を続けていました。試験勉強を続けることは、勉強をするのが苦手な私にとって、とても苦しい経験でした。はじめは1日3時間を目標にして、その後、徐々に時間を長くしていくように、段階を踏む目標設定

をしました。結果、2ヶ月経たないうちに1日7～8時間勉強を続けることができるようになりました。勉強の習慣を身につける過程で、時間を大切にする生活になりました。そうすると、自ずと他のことにも時間を意識して取り組むようになり、規則正しい生活も送れるようになりました。このような経験を4ヶ月間しっかりと経験できたことは、将来のためになると思います。この経験を活かして、社会人になっても生活習慣の乱れない規則正しい生活をできるようにしたいと思います。また、将来は、航空業界に就職して、今回の留学で経験したことを活かして活躍できる人材になることを目標に積極的に様々なことに取り組みたいと思います。

4. その他事項

今回の留学は2回目で、その2回の留学を経験して印象に残っていることは、「日本は世界から人気がある国」なのだなと感じたことです。現地で出会う人々のほとんどが「日本に行きたいんだよね」、「日本はいい国だよね」というようなことを言ってくれる人が沢山いました。実は、1回目の留学に行くまでは日本から出たことがなく、世界からの実際の評価を聞いたことがなかったです。それまでは日本はあまりいい国ではないと思いながら、日本から出て、海外で就職したいと考えているほどでした。

しかし、このような実際の評価を耳にすることで日本への考え方が変わり、今では日本のことを大切にしたいと思うようになりました。留学に行けば新しい価値観が身につくとよく言われていますが、それは本当のことだと強く実感しました。留学という貴重な体験を2回もできたことは今後の人生でも大きなものになると思います。

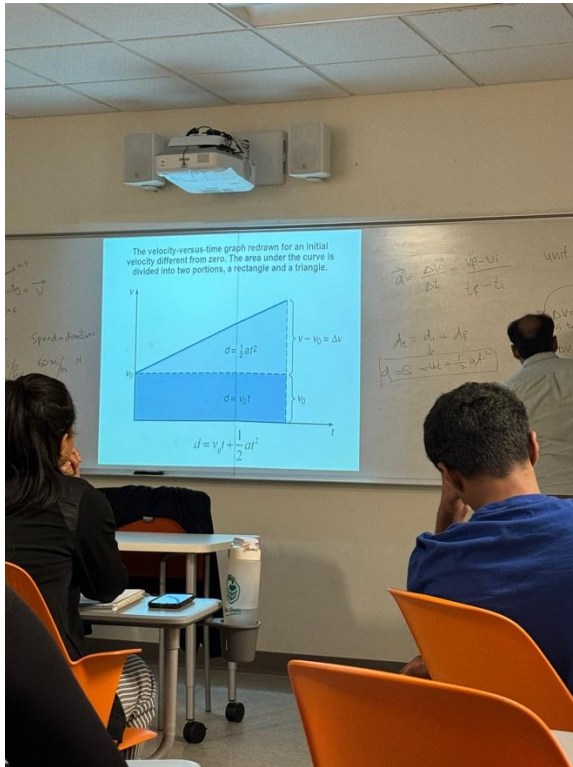
今回の伊藤先生からの伊藤奨学金のご支援がなければ実現することはできませんでした。重ねてお礼申し上げます。これからもこの経験を活かして日々勉学に励んでいきたいと思います。

(添付写真)

留学中、友人たちと撮った写真。







2025 年 3 月 24 日

2024 年度伊藤奨学生留学報告書

留学先国・大学名： オランダ・The Hague University of Applied Sciences
(ハーグ応用科学大学)

留学期間： 2024 年 8 月 28 日～2025 年 2 月 5 日 (約 5 ヶ月間)

1. 留学計画 (簡単に)

- ・ ヨーロッパ、オランダを知る

訪れたことのないヨーロッパの中に位置するオランダで生活し、その文化や特徴を肌で感じる。オランダの名所や歴史的な建造物を目にして、自分自身の知見を広げる。

- ・ 卒業論文の研究を進める

自分の卒業論文のテーマである、「なぜオランダ人は英語を話せるのか」について、オランダ人の学生へのアンケートや実際に彼らと対面して話すことで、研究を進める。

- ・ 自分自身の成長

オランダにて一人で生活し、英語力だけでなく、人間力を高め、国際的な人生経験を積みたい。海外で一人暮らしという稀有な経験を通して、何事にも動じない芯の強さを身に付けたい。

2. 活動報告・計画達成状況 (学業、生活、イベントなどへの取り組みなど)

(1) 学業 (履修した授業の内容を簡単に記述し、学んだことを記述。)

学業面では、ハーグ応用科学大学 ズートミアキャンパスにてゲームデベロップメントコースに所属し、ストーリーテリング、コンセプトアート、3D&アニメーション、レベル&サウンドデザインの 4 つの授業を受講しました。このコースは、ゲーム作りについて学ぶコースで、実際に約 8 人前後のグループに分かれ、チームのメンバーと協力、役割分担して一つのゲームを作ります。それぞれの授業ではゲームのストーリーについて、キャラクターのデザインの仕方や描き方、3D モデルとアニメーションの作成、難易度設定の重要性などを学びました。また、チームの中では、唯一の日本人という特性を生かし、日本の要素や文化について

の情報収集、日本人キャラクターの声優と、ストーリー制作を担当しました。

授業は 1 セミスターの前半だけ実施され、後半はそれぞれのチームのゲーム制作の時間に充てられていました。



3D&アニメーションの授業風景

(2) 生活（ホームステイ、学生寮、シェアハウス、アパートなどでの経験）

生活面では、一軒家に何人かのハウスメイトと一緒に住んでいました。その中でも 40 代のオランダ人男性は、私のことを息子のように思ってくれていたようで、よく料理を作ってくれたり、部屋に掃除に来るなど何かと私を気遣ってくれました。家のオーナーの奥さんの兄弟が誕生日の日に家に来た時には、誕生日パーティーに招待され、一緒にケーキを食べたこともありました。

(3) イベントなどへの取組み（異文化交流の体験など）

- ハーグ応用科学大学の学生有志による SIM アソシエーションという団体が企画するパーティーやゲームナイトといったイベントに参加しました。パーティーでは、クラブを貸し切り、大学の生徒たちによる親睦を深める賑やかなパーティーを楽しみました。ゲームナイトは、ズートミアキャンパス内で、学生たちが夜通しゲームをするといったユニークなイベントでした。そこではゲームの大会がいくつか開かれ、大きな賑わいを見せていました。私自身もそれらに参加し、ある部門で 2 位となり賞金として 20€ を獲得しました。それらのイベントや大会を通して、交友関係が広がり、オランダ人の性格やパーティー文化を知ることができました。

3. 留学を終えての所感と将来への抱負

(1) 所感（自由に）

オランダでの留学を通じて、「一人で生きていく」という言葉の意味を

知りました。5カ月の留学期間中、孤独を感じた瞬間は少なくはありませんでした。新しい友人は何人かできましたが、日本人と出会うことはアムステルダム観光を除くと一度もありませんでした。オランダに住んでいるのは勿論オランダ人、白人が最も多く、他にはイラクなどの中東にルーツを持つ人々でした。東アジアの人々を見ることはほとんどありませんでした。そういう意味では、知り合いが周りにいなかっただけでなく、人種的にも孤独でした。だからこそ言えることは、「一人で生きていく力」が養われたということです。それらを乗り越えた今、どんな国でも、どんな状態でも一人で生き永らえる自信がついたことは、大きな成果と言えます。

「母国語」について。

オランダ留学に行く前は、母国語の日本語のことは深く考えたことは、ありませんでした。5カ月間、人と対面して日本語を使わずにいと、なんだか自分が自分でないような気がしていました。留学中、私の第二言語である英語を使って人とコミュニケーションを図っていたわけですが、その場で行われる会話はどこかぼやけていました。その場にいたのは、日本人の自分ではなく、外国人の自分、であるかのようでした。日本語を口にしないことに連れて、自分自身の中で日本語自体が浮かび上がることが少なくなっていました。これらのことから、自分を自分たらしめている要素の大きな一つに、「母国語としての日本語」があると知りました。個人を個人らしくしている「母国語」という存在は、おそらく誰しものが必要なものであり、切っても切り離せないものであると、今ならそう思えます。

(2) 将来への抱負（留学経験をどのように活かすのか？）

オランダ留学を経験して、自分の人生を見返す良い機会を得れたこと、どこでも一人で生きていける力を身に着けることができたこと、ヨーロッパに実際に住むという稀有な経験ができたことを幸運に思っています。

人間は、大きな問題にぶつかり、それを乗り越えたあとは、どんなことが起きても動じない強い精神が身に付くと思います。私にとっては、今回の留学で起きたいくつかの問題がそのひとつであるから、これからの人生を進めるにあたって、この経験を生かし、芯の通った生き方をしていきたいと思っています。

4. その他

ゲームデベロップメントコースの最終日、EXPO DAY というそれぞれのチームが作ったゲームを発表する日がありました。そこで私のチームが作ったゲームが高く評価され、最優秀賞を受賞することができました。幸運にも優秀なチームメンバーに恵まれたこと、とても嬉しく思います。





最後になりますが、この度は、伊藤奨学金を授与していただき、伊藤謙介先生をはじめ関係者の皆様に心より御礼申し上げます。この経験を生かし、これからも日々精進して参ります。

以上

2025 年 3 月 10 日

2024 年度伊藤奨学生留学報告書

留学先国・大学名：カナダ・ブリティッシュコロンビア州・ケロウナ

Okanagan College オカナガンカレッジ

留学期間： 2024 年 4 月 30 日～2024 年 8 月 26 日 （ 4 ヶ月間）

1. 留学計画（簡単に）

- ・現地の方と交流し、様々な文化を学び知ること。
- ・自分の苦手なことにも積極的に挑戦する。
- ・英語力（スピーキング・リスニング）を伸ばす。

2. 活動報告・計画達成状況（学業、生活、イベントなどへの取り組みなど）

(1) 学業（履修した授業の内容を簡単に記述し、学んだことを記述。）

5 月から 6 月の約 2 か月は、ライティング・リーディングの授業だった。その後、2 週間ほど休暇があり、7 月の頭から 8 月の約 2 か月は、スピーキング・リスニングの授業だった。

ライティング・リーディングの授業の中の、英語のライティングは、先生から与えられたテーマに対して、エッセイを書き、添削してもらっていた。また、子供っぽい文章をやめるため、2 つのセンテンスを 1 つのセンテンスにする方法を学んだり、エッセイの Introduction・body・conclusion でよく使われる表現を学んだりした。リーディングでは、フィクション・ファンタジーの作品の本を読み、クラスメートとディスカッションを行った。フィクションブックには、自分の知らない単語がたくさんあり、毎回授業後のホームワークとして出されるので、自分のボキャブラリーを増やせる良い機会となった。

スピーキング・リスニングの授業では、教科書に沿って授業が進んだ。また、ペアワークやグループディスカッションが多くあった。特に、2 回プレゼンテーションがあり、テストとして評価をもらった。それぞれのお題が「company」と「food」だった。授業には、日本以外の国からきているクラスメートもいるため、日本以外の企業や、料理を知ることができて、とても印象に残った。また、クラスでそれぞれ自分の国の料理を持ち寄って、実際にみんなで食べた。

上に書いてある通り、どちらの授業にも日本以外の国からきているクラスメートが多くいた。クラスメートには、結婚して家庭を持っている人もいれば、カナダで仕事をするために英語を学びに来ている人もいた。いろんな境遇のクラ

スマートがいて刺激的な時間を過ごしたし、自分よりもずっと年上の人と授業を受けることはめったにないだろうと貴重な時間に思った。

(2) 生活（ホームステイ、学生寮、シェアハウス、アパートなどでの経験）

私の生活方法は、ホームステイだった。私のホームステイ生活は、自分から行動することの大切さを知ることができた。

カナダに来る前は、ホストファミリーと仲良くなって、帰国後も連絡を取り合う中になれたらよいと考えていた。しかし、実際はそうではなかった。私のホストファミリーはいろんなイベントに誘ってくれたり家族で買い物を行ったりというのはあまりなかった。それでも、せつかくカナダという場所に来たのだから、その場でしか体験できないことがしたいと思い、自分からホストファミリーに声をかけた。すると、教会に連れて行ってくれたり、一緒にコストコに行ったりできた。そこで、受け身の姿勢で物事を待つのではなく、自分の思いに少しでも近づくために考え、行動することの大切さに気付いた。

(3) イベントなどへの取組み（異文化交流の体験など）

7月1日がカナダ Day だった。町に行けば、カナダの服を着た人や国旗を持った人、グッズを身に着けている人がいた。たくさん催し物をしており、コンテナーもたてられていた。

上に書いてある通り、ホストファミリーと教会に行った。毎週日曜日に教会に行っているという話を少し聞いて、そこから興味を持ち、声をかけ、誰でも行けるといわれたので行った。最初は、どのようなところかもわからないため少し緊張していたが、教会にいた人はみんな暖かく迎えてくれた。中に入ると、たくさんの人がいて、驚いた。大勢の人の前には、歌を歌う人、ギターを弾く人、ドラムを叩く人がいた。祈りをささげるときも、音楽ライブのような感じがした。その後、ほかの家族と交流したり、お昼ごはんが提供されたりした。教会では、無料でシャワーを浴びることができ、ご飯が提供される。カナダでは、ホームレスがたくさんいるため、彼らにとって教会は良い施設だからよく来るとホストファミリーが教えてくれた。正直、教会というと厳しく、堅苦しいイメージがあった。しかし、今回の経験を通して、楽しいイメージになった。宗教とは、無縁だったけどなかなかない体験だった。

交流していると、町に意外と日本になじみのある人がいると感じた。スピーキングの授業の一部として、ビーチに行った。そこで、5つ質問の書かれた紙を持ちビーチにいる人に声をかけ、2つ自分から質問し、2つ自分に質問してもらうというものを行った。合計6人に声をかけなければいけなく、2人ほど日本になじみのある人と会話した。1人目は、夫が日本人だという方、2人目は、孫が日

本に留学中だという方でした。そのほか、アニメのドラゴンボールが好きだという人とも会話した。今まで、日本でしか暮らしていなかったから、日本以外の国から日本を見たことがなかった。しかし、直接日本に関することを聞くと驚きとともに嬉しかった。

3. 留学を終えての所感と将来への抱負

(1) 所感（自由に）

自分自身が成長を感じられる留学というテーマのもと、つらいことも楽しいことも経験できて、大学生活4年間の中で有意義な4か月間を過ごせた。私は日本から出たことがなく、留学では全く新しい人間関係・生活習慣だった。その慣れない環境で過ごすことで、ホームステイの生活で思い通りにいかなかった困難やクラスメートがそれぞれ自分の国の料理を持ち寄って食べあい喜びや楽しさを感じ、それらを乗り越えたことで、自分に成長を感じた。

(2) 将来への抱負（留学経験をどのように活かすのか？）

私は、これからも継続して英語を話せる環境に身を自分からおこうと思う。

もともと、英語を話すことが苦手だったが、留学を通して楽しさに気づいた。留学へ行く前、自分の話す英語には、文法や発音が間違っているのではないだろうかと考え、自信がなかった。しかし、留学へ行き、自分の伝えたいことが伝わった時にすごくうれしかった。そこで、まず発音や文法を気にする前に、自分から伝えようとするのが大切だと分かった。

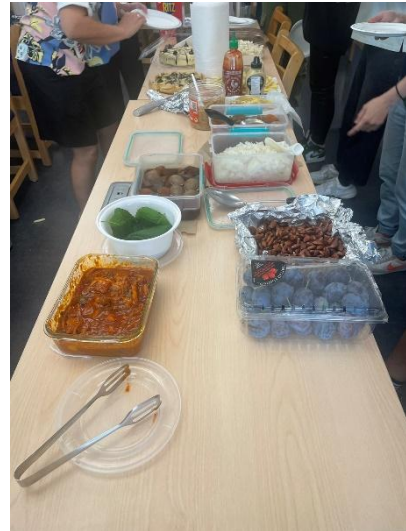
今後も、自分からオンライン英会話などを利用し、英語を話すことができるようにしていきたい。

4. その他事項

(添付)



スピーキング・リスニングクラスのクラスメート
韓国・台湾・中国・ウクライナ・フランス・日本・トルコ
シリア・ネパールなどからの学生がいる



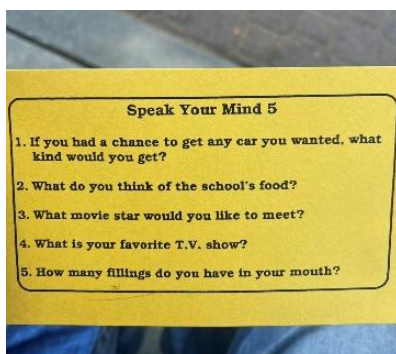
クラスメートが自分の国の料理を
持ち寄っている様子



一番左の方がリーディングクラスの時のクラスメートで
帰国3日前に家に招いてくれた時の様子



左の写真の時にクラスメートが
出してくれたイラン料理



←これは、ビーチに行って地元の方に質問する時に
自分が引いた質問が書かれた紙